

水稲新品種「トヨタマ」について

橘高昭雄・向井康・上野貞一・衛藤信男

(宮崎県総合農業試験場)

KITSUTAKA, A., MUKAI, Y., UENO, S. and ETO, N.

A New Rice Variety "Toyotama"

昭和43年本品種の育成を終り、昭和44年宮崎県で奨励品種に、佐賀県で認定品種に採用され普及に移されることになったので、育成の経過および特性の概要をのべ参考に供したい。

来歴および育成経過

昭和37年宮崎県農業試験場において「ホウヨク」を母、「ヤマビコ」を父として人工交配をおこない、同年晩期栽培でF₁を、次年F₂ F₃を集団で養成し、以後系統育種法により選抜固定をはかったものである。昭和42年度より「南海43号」の系統名で関係県に配付し地方的適否を確かめてきたもので、昭和44年(F₉)水稲農林205号に登録され「トヨタマ」と命名された。

形態的特性

ホウヨクに比べ稈長は5~6cm短く、穂はやや大きい短稈穂数型の梗種。葉はホウヨクよりやや大きく直立型、穂は短芒がわずかにあり稃先色、稃色は黄白、粒着は中、脱粒性中、玄米は中形中粒で心白、腹白は出にくく、農林18号、タチカラ、ホウヨクより良質で食味も良好である。

生態的特性

出穂、成熟期はホウヨク程度の中生種、倒伏抵抗性はホウヨクに勝り極強、病害抵抗性はいもち病中(ホウヨク、タチカラ弱)白葉枯病に対しては九州地方に普通に分布する菌系には全勝26号の遺伝子をもち強(ホウヨク強、タチカラ弱)紋枯病には中(ホウヨク、タチカラ中)である。試作の結果、タチカラ、ホウヨクより安全多収ですぐれており、九州、四国、中国地方の広い範囲に適するものと思はれる。

適地および奨励品種採用県

この品種はホウヨクの熟期、草状の良さ、強稈性をそのまま維持しながら、その欠点である米質と、

いもち病抵抗性を改良し収量性を一段と高めたもので、北、中九州におけるホウヨク、シラヌイ、南九州におけるタチカラにかわり産米改良に役立つ品種

第1表 一般特性

項目	トヨタマ	ホウヨク	タチカラ
出穂期	9.1	9.1	9.5
成熟期	10.12	10.12	10.16
稈長(cm)	79.0	88.0	85.0
穂長(cm)	20.4	19.9	20.3
穂数(本/株)	17.7	17.5	16.8
芒の有無・稃先色	少,短白中	少,中白中	無白難
倒伏抵抗性	強	強	やや強
いもち病抵抗性	中	弱	弱
穂いもち病抵抗性	中	弱	やや弱
白葉枯病抵抗性	強	強	弱
アール当玄米重(kg)	58.2	55.6	55.4
玄米千粒重(g)	23.2	22.2	23.6
玄米品質	上下	中中	中中
調査地	宮崎県総合農業試験場		
調査年次	昭和42, 43年		

第2表 ホウヨクに対する収量比(%)

(42, 43年, 72試験箇所)

収量比	90~95	95~100	100~105	105~110	110~
個所数	2	6	17	28	19
平均収量指数(72箇所)	107.4%				

として期待され昭和44年度は宮崎県で奨励品種に、佐賀県で認定品種に採用された。

栽培上の注意

広域適応性に富む品種だが、短稈種なので極端な瘠薄地には適さない。稈長と収量の相関は高く肥培は稈長を目安にすると、75cm~85cm位のとき安定して多収を上げており70cm以下では実力を発揮出来にくい。いもち病に対してはタチカラ、ホウヨクよりわずかに強くなっているに過ぎないので常発地はさけ防除対策をたてておく必要がある。

命名の由来

育成地および奨励県である宮崎県にゆかりのある神話の豊玉姫に因み、あわせて多収良質であることを示す。